

明日を拓く

おおくにぬしのみこと

大国主命の伝承にあやかり、全国展開



株エリーゼ 取締役
木下 仁志 氏

(株)エリーゼという、玄米を超高水圧加工する企業が本町に進出することになります。この会社は、大阪繊維街にある老舗のタンゴヤ(株)が親会社で、タンゴヤはNHKの朝ドラ「カーネーション」で生地を卸していた会社。エリーゼは、本社ビル地下で「美々庵」という飲食店を開き、この加工玄米を使ったメニューを提供していますが、昼食時は毎日満席。本町において創業後、食品研究所の立地併設を検討しながら、全国展開を予定しています。



問 超高圧加工玄米とはどんなものか

答 食料の長期保存技術として開発された。1千気圧〜2千気圧をかけると細菌は死滅し、6千気圧でたんぱく質とでんぷんが変性し、人間が吸収しやすい形になる。また、アレルギンの元になる物質が少なくなることも突き止められた。

普通の炊飯方法でおいしく炊けるし、加工しやすくなったことで、パンなど新たな利用方法の道が開けた。このパンなら毎朝食べて玄米食の効果を得ることが出来る。

問 飯南町に進出する理由はどこにあるのか

答 加工加工に水を使うの、きれいな水とおいしい農産物が取れることが条件だ。

この町は、空気・水がきれいで、農作物がおいしい。ここならよい結果が得られると確信した。もうひとつは、物語になる神話があることだ。

問 私たちは大国主が農業技術をこの地で研究し、日本中に広めたという伝承に興味を持っている。これにあやかり、再びこの地から加工玄米を全国に広めたい。

私たちは大国主が農業技術をこの地で研究し、日本中に広めたという伝承に興味を持っていて。これにあやかり、再びこの地から加工玄米を全国に広めたい。

問 地域の雇用は期待できるか

答 秋には10名程度の雇用に考えている。

需要の増加に従い、3年後には20名程度にしたい。

問 工場としての安全性はどうか

答 6千気圧という高圧力は心配かも知れないが、1箇所でもひびが入ると減圧し、事故にはつながらない。また、ゆっくり加圧しなければ高圧にならないため、大きな音は発生しないが、防音壁は設置する。汚水は米を洗うとき発生するが、公共下水道へ接続する。

問 米を生産者からいくらで買取、いくらで売って、いくらか

答 飯南町から買い入れる米は1kg250円程度を考えている。

加工玄米の小売価格は当初1kg1000円程度で考えているが、事業が安定したら700円程度にしたい。経費節減でもっと安く出来るかもしれないが、地域に雇用を生むことがもうひとつの目的なので、極端なコストカットは考えていない。



表紙の写真

編集後記

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から一年が経過したが、被災地では、震災がれきの処理が進んでいない。背景には、放射能汚染の拡散に対する住民不安があり、その処理を受け入れる施設が無いからだ。

あの日、テレビが伝える生の映像に、これが同じ日本の中で起きていることとして受けとめられず、遠い外国のできごとのように私の中では映っていた。

しかし、大震災から数カ月、その影響が思わぬ形で身近に現れた。宮城県から購入された稲ワラに放射性セシウムが含まれていたことから、影響は堆肥にまで拡大した。その処理方法が検討されているが、結論に至っていない状況は、被災地に類似している。

いま、まさに「絆」を行動として表すことが求められている。そして、この大震災・原発事故の経過を、しっかりと検証して後世に伝えなければならぬ。この点は議会広報と共通している。

議会広報編集委員会

熊谷 兼樹



木下取締役と千切部長にインタビュー